

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
分担研究報告書

脳死肝移植待機リストにおける HIV/HCV 重複感染患者の現状

研究分担者 玄田拓哉
順天堂大学医学部附属静岡病院消化器内科 教授

研究要旨：2012 年から HIV/HCV 重複感染レシピエント候補に対して医学的緊急性配点ランクアップが行われている。本研究では重複感染患者に対する配点ランクアップの効果を検証するため、ランクアップ施行前後の重複感染者の脳死肝移植実施率・待機死亡率と、それ以外の肝硬変患者の脳死肝移植実施率・待機死亡率を比較した。

共同研究者
市田隆文 湘南東部総合病院 病院長

A. 研究目的

脳死肝移植レシピエント候補として登録された HIV/HCV 重複感染患者に対する医学的緊急性配点ランクアップの効果を検証した。

B. 研究方法

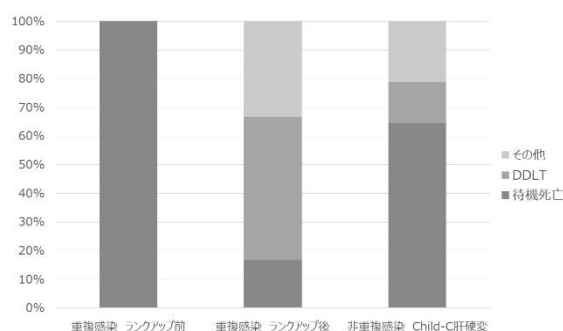
2007 年 3 月以降に日本脳死肝移植適応評価委員会において評価を受け、臓器移植ネットワークに脳死肝移植レシピエント候補として登録された待機患者を対象とした。日本脳死肝移植適応評価委員会事務局データベースに記録された適応評価時の臨床情報、検査成績と日本臓器移植ネットワークに登録された転帰を用いて検討を行った。Child-B 以上で登録された HIV/HCV 重複感染者の転帰と、それ以外の Child-C 肝硬変患者の転帰を比較した。

C. 研究結果

2007 年 3 月から 2018 年 12 月までにのべ 3100 例（新規申請 2325 例、再申請 775 例）が適応評価を受け脳死肝移植待機リストに登録された。新規申請患者のうち 18 歳以上の成人例は 2100 例であり、このうち C 型肝硬変患者は 426 例で 20.3%を占めていた。HIV/HCV 重複感染患者は 12 例で、成人例の 0.6%、C 型肝硬変患者の 2.8%を占め、全例が血友病を合併していた。重複感染者の新規登録は 2017 年 1 月が最後で、それ以降の新規登録はなかった。重複感染者のうちランクアップ制度施行前に Child-B 以上で登録された患者は 4 例であり、全例が最終転帰は待機死亡で

あった（100.0%）。ランクアップ制度施行後に同様に Child-B 以上で登録された重複感染者は 6 例であったが、3 例（50.0%）に脳死肝移植が行われ、待機死亡の転帰は 1 例（16.7%）のみであった。同時期に非重複感染者で登録された Child-C 肝硬変 1014 例の待機死亡率は 64.6%で、脳死肝移植実施率は 14.2%であった。

図：脳死肝移植待機登録後の最終転帰



D. 考 察

重複感染者に対して 2012 年から医学的緊急性配点のランクアップが認められ、それ以降は脳死肝移植実施例の増加と待機死亡例の減少が確認された。脳死肝移植施行率や待機死亡率は同時期に登録された Child-C 非重複感染者より良好であった。

E. 結 論

HIV/HCV 重複感染患者に対する医学的緊急性配点変更により脳死肝移植施行例が増加し、待機死亡率は低下している。脳死肝移植施行率は非重複感染者と比較しても良好である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1.論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1.特許取得 なし

2.実用新案登録 なし

3.その他 なし